

昭和三年六月二十三日招集(第二号)
第二回市議会は創立会々議録

館山市議会第二回定例会議録(第二号)

昭和三十九年六月招集

一 六月二十二日(月曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 議案第七十号

千葉市外九十四市町村、軽自動車税の賦課徴収に关する事務を行う取員、关同設置規約の一部改正について

第二 議案第七十一号

館山市財政事情の作成及び公表に关する条例の一部を改正する条例の制定について
館山市学校職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

第三 議案第七十二号

第四 議案第七十三号

人権擁護委員の推薦について同意を求めらるについて

第五 議案第七十四号

館山市非常勤消防団員に係る報酬

金の支給に關する条例の制定について

議案第七十六号

昭和三十九年度館山市一般会計補正予算

議案第七十七号

昭和三十九年度館山市と畜場特別会計

第六

補正予算

議案第七十八号

昭和三十九年度館山市簡易水道特別会計

補正予算

議案第七十九号

昭和三十九年度館山市休養施設特別会計

補正予算

午前十時 開議

議長（黒川佐太郎君）本日の出席議員数三十四名、これより才二回市議会定例会才二日の会議を開会いたします。本日の議事はおきえに配付の日程表により行ないます。

この際申し上げます。本日の議事案件は去る十九日の本会議において全部説明を終つておりますので、本日は質疑はより行ないます。

日程才一議案才七十号を上程いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）御質疑なしと認めます。よて本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略、原案通り可決するに御質疑ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）御異議なしと認めます。よて

本案は原案通り可決されました。日程才二議案才七十一号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 御質疑なしと認めます。よって本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程才三議案才七十二号を上程いたします。

一番(石井正君) ニ・三伺います。才一英は今まで才十七条の四項によりますと科学技術に関する専門的知識を必要とするもので求めにくいという点について初任給の調整手当が出てお、たように

把握しますか。それを見ますと、新たに別表ニ表の給料表による二等級の取にあるものには全部繰該当するようにかわった。この英がわからないのでお聞きいたします。又二英は新たにということはいわゆる教員の初任給者とするかあるいは館山高校に初めて採用された転任者もそれに含まれるのか。以て二英をお伺いいたします。

・庶務課長（~~新~~場伊右正門君）

今度の初任給の調整手当の改正については大学を卒業して四年過ぎても、なものは該当しません。四年以内のもので新たに採用されたもの、それからここは転任になつたものそれぞれ含めます。それから月々転任はひきつらな二等級のもの一応全部含めます。その他に技術関係の取にあるもの、他は

どう専門以外 欠員の補充に特別の事情があることを認められるものはやはりそれに該当するということになります。

。一番（石井正君）

わからないんですか。そうしますといわゆる科学技術の専門者に限らないということにはわかったけれどもそれに付随しまして、岡山高等学校においては補充元が困難という教科というものはほかに設けられていろいろかゝるけれども、それから別表才二の高等学校取員給料表の二等級の取員ということは科学技術に限らずあるいは欠員補充が困難ということに限らず一般的に全部含まれるように解釈するわけですか。私の質問は、いわゆる才二表の二等級の取員は新たに採用されたりうは全部調整手当に該当する

という解釈を以ていいんですか。その点を質問した
わけです。

それから付随しまして、そうすれば解釈が違うならば
いわゆる今までの才十七条の四項である補充が困難とある
いは専門取という立場のみに支給するとあるならば
改正の必要はないというふうに解釈するわけです。

・庶務課長（~~井~~井場伊右エ門君）十七条の四の關係でございま
すか。二等級というのは教諭の取にあるものでござ
います。ただそれだけ見ますと、全部の教諭に出
されなければならぬということになりますか。二項に
いうまゝして、前項の規定による支給方法につきまして
は千葉県公立学校取員の例による、ということに
なっております。それで技術關係の専門取については
県の給与に關する条例にもあります才八条の三の才

一号は「科学的技術に関する専門的知識を必要として、かつ採用による欠員の補充が困難であると認められるもの」、二号で「三号の取以外で専門的知識を必要とし、かつ採用による欠員の補充について特別の事情があると認められるもの」というように、そういうものは一応初任給調整手当の該当者であるというふうになつております。それを千葉県公立学校取員の例を準用して、今度館山高校の関係も行ないたい。これは才一英でございます。

才十七条の四というのは大体額が二千円を越さない範囲においてそれを支給するのだということになつておたのでございますか。今度の改正によりますと一年目のものは二千五百円、二年目のものは千七百円、三年

国うもうは五百円というように額がかわって参ります。

そういう関係で今まで低か、たしものもある程度県の
高校並みになったという事でございます。

・二番（石井正君）

今う説明はわかるんですが、ただいまう説明でいます
といわゆる二千円か二千円以下か二千五百円以下にな
って年々減額をうていく。

どう矣だけうかわり方であ、てあとの科学技術の云
々という欠員の補充が困難と認める云々という面は
生きているのであ、て今度の才七条う又面からいま
まずと解釈が今いわれたような解釈には立ち切れな
いと思うわけですか、これでいきますといわゆる初任給
の中で新たに採用された林取員には全部該当す
るように解釈する。

・庶務課長（井場伊右工内君）

破かに一・一歳議員さんといわれたように願の引き上げがございまして大体その中に盛られておるものは旧法と新しいものと同じように生きております。一・一歳（石井正君）

それでは秘書課長さんに御質問いたしますか。ただいま私が今お話ししましたかその点についてどう解釈しますか。

・秘書課長（小倉澄男君）ちょっと権限外でございしますので

・庶務課長（井場伊右工内君）ここには、より明示すればよ

か、たんですか大体その条に書いております千葉県公立取員の例によるとのことでそれで私の方は一応処理するということですので細目からわたってここには上げない、たのでございす。だからその支給方法とか願とかそ

ういふものは全部県立高等学校並みにおおるのだといふ
すでございます。

・一層（石井正君）

ここでもめろもしようがないので一応ただいま申し上げ
まゝにしようにこれだけは旧法を照らし合わせて見
なければ解釈できない。

ですからもう少し研究して改正の要があるなら次
会に一つ提案をお願いしたいと思います。以上

・議長（里川佐太郎君）

おはかりいたします。本議はこれにて質疑を打ち切
り討論省略原案通り可決するに仰異議ありません
か。

（異議なしと呼ぶ者あり）

・議長（里川佐太郎君）仰異議なしと認めます。よって

本案は原案通り可決いたしました。

日程才四歳案才七十三号を上程いたします。

七番(田村源治郎君)人権擁護委員の推薦に對して
求めらる人選に對して基礎があつて適格性ということと
認めたることをや、たかという處をお願いしたい。

企画課長(谷貝茂生君)お答えいたします。人権擁護
委員は法務大臣の委嘱になつておりますが、市町
村長の推薦ということになつております。

この内容につきましては人格識見の高いろゑなく社会の
実情に通じていて人権擁護に理解のある社会実
業家・教育者・報道者・弁護士・婦人・
労働青年団体 とうい、たるものの中から市町村
町か議会の意見を聞いて推薦をとるということになつて
おります。

・七番（田村源治郎君）

私のいわんとするところは下層部に求めてやうだが、
前例的にやったかということでは進歩が何らない。そ
のことはいいという事は認められない。

どう重大士を知って部落とかいろいろ聞いてやる。も
っと下層部によく聞いてはか、て人選を求めて通格
者を出してあるならば私は同意である。

それとも前例になら、た名前を出せばいいというもの
ではなからうと私は思います。

私はここに出された以上は反対するものではないけ
れどもそのことは今度銘記してもっと一般からよく聞
く合わして人選を進めようという。これで打ち切ります。
・三四番（島野茂樹郎君） 三英について御質問申し上げ
ます。どう人権擁護委員の推薦に當って基礎になる

法仲 とういうものはいい、たい何であるかということをお
 明示いたいただきたい。二つ目は定数は何名であつてど
 の任期はどうなつてゐるのかということ。三つ目はここに
 推薦された方々は人権擁護のために本当に努力する
 もりであるという自信を持つて推薦されておることと
 思います。そのこととしまゝ一及仰説明いただきたい。以
 上でございます。

企画課長（谷貝茂生君） お答えいたします。第一莫
 は人権擁護委員法という法律により基いて
 二十四年五月三十一日法律百三十号でつて制定さ
 れました。人権擁護委員法これは三十七年八月
 一日に施行されておりますが、それによりまして
 務大臣が市町村長の推薦されておるものと、それ
 によりまして法務大臣が市町村長の推薦に基

いて先ほど申し上げましたようなところの項目に
該当した人から推薦して法務大臣が要嘱するこ
うことになっております。定数の件でございますか
定数につきましては人権擁護委員法の第四条に
全国で委員の定数は三万人と感えないということ
になっております。当市におきましては全国の標準
設置委員数は法務省^{省令}によりますので大体定数で
ございますが、これはあくまでもその定数にこだわらず
その市町村の実情に応じてきめるということになって
おります。今までは人名でございまして市として
も全国標準数から申ししますと大体十名ということにな
っておりますが、今までの実績^{実績}を見ますと年間に二件とか
三件とかわずかでございます。たいして支障もなかった
ということでした。男の方ばかりでございまして、女の方

員も入位あらうかといふこととて一名ふやして七名
といふこととてお願いしたわけでございます。

法務局等の意見も聞きました。今までの方も非常
に穩健であつて過去の経験からしましても適任者で
あるといふ意見を承りております。また新たに
願ひしようとする方々は議會人であつたかも知れ
ない。あるいは女の方は裁判所の調停委員等もや
られた経験もございますので一応最通任者といふ
ことから議會の御意見を伺うべく提案した次
でございます。

任期は三年でございます。

議長（里川佐太郎君）本案はこれにて質疑を打ち
切り討論省略。原案通り伺意するに御異議ござい
ませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(里川佐太郎君)御異議なしと認めます。よ
て本案は原案通り可決されました。

日程才五議案才七十四号を工程いたします。

・二三番(君塚喜王君)才六条に退取報償金支給の制限
が明記されております。そうして才一項から才六項
まで上げられているわけでございますか。その才一項に
ついてお尋ねいたしたいと思います。

この項で禁錮以上の刑に処せられたものは退取報
償金が支給できないということか明記されているわけであ
ります。

これは消防団員としての期間中でのこととありますか
条文の上からすれば消防団員になる以前かよろし罪を
おこしたのも適用することになるのではないかと。ところが

非常勤消防団員とするについて何らの制限のない。
 現在全く^{分団}の自主性にあるわけでありまして分
 団はより分団員を採納するについては、なりてかなくて
 困る。後援会にその選出方を依頼をしてきてお
 る。また後援会の非常に苦勞いたしておるというの
 が現状であるわけであります。なればこそこういう
 優遇案をも考えてきたことと思うのであります。か
 徒って過去にこうした罪をおかしたのも、現在消防
 団員の中にもあるかも知れません。
 今後入ってくる可能性もあるわけであります。
 かようなことを考えますと、このオ一頃について
 は、より消防団員として、期間中には、かよう
 な罪をおかしたものと、かような明示が必要では
 ないか、この英についてお尋ねするわけです。

する上にいろいろな疑義が生ずるわけでありまして
その疑義に対する問答形式のもの如国の方から参
ておりますかその問答の中にどういふことが出ており
ますかその英は御心配いらぬいふではなにかこうい
ふうに考えるわけであります

八番（望月照正君）ちよとお尋ねしたいと思ひますか
この条例は盪日消防署長からいろいろ説明されて
おりますか国の消防法に基くものであつて館山市
の消防条例による消防団員の任期は何年である
か。それから消防団員は特別な例を除きます
が、四十七・八才までが館山市の年数の規定にな
つてゐると思ひます。

ここにあります二十五年以上の勤務者 二十五年とい
いますと二十から四十五才非常にこの退職報酬金

制度というものが現状には即さないものでない
か。館山市におきましては消防団の任期を一期を四
期というふうに考えておりますか。四年間、任期を
終りますときには館山市としては退職金を幾分なり
とも支給するようなる法を講じられないか。そう
いう質問をお願いしたいと思います。

消防団長（岩田実君）お答をいたします。任期はた
たいまあ、しいます通り四年でございます。それから
四十二才までの男子ということになっておりますか。ただ
特例でどうしてもしほかにかえたいというような方に
対しては別に四十五才以上でもさうつかえないといふ
うになっております。

なおただいま十五年以上というだけでは不十分では
ないかと、少い年限を勤められた団員の方にも

退職報酬金のようになりものを出したらどうかというよう
 な仰負向でございすか。確かにそういう点はありません
 して、実はたゞいますでに昨年の秋ごろから何とか消防団
 員の方を優遇したいというような趣旨のものとに千
 葉県消防協会におきまして退職金制度を研究
 してございましてこれは各市町村の団員一名について年間
 百千程度それから市町村の住民一名について二
 千程度の掛金を掛けましてそれによりましてまた
 その他に大体県の方から年間大体一千万円補助
 をいたしましてその基金にして報酬金にしよう
 という案がいろいろ考案されてございまして国々退
 職金制度と一緒に国の示します条例とかいふみ合
 わせまして十五年以下の報酬金の条例を作ろうと
 いうこともあつたのでございすか。県の方の報酬の規

約かまとまりませんので遅れたわけでございますか
そういたしたようぢ次第でございますうで聞しむく十五年
以下の十年以上の方も県の方の報償制度がござい
るようにならうではないかそういうふうになつておらうござ
います。

・八番(望月照正君)私の質問は館山市の消防団員が
一期四年であるということ一期を勤めた方には多少
でも報償金をさし上げたかどうかその点お答えを
いたしたいと思います。

・消防署長(岩田実君)おっしゃる通り非常に団員
の方は一か年間の報酬が千七百というようにな現在の
経済情勢に合わないような報酬でございます。

ただ消防団は全国的な組織でございますして他市と
のふれ合いもあるわけでございますして私の聞く範囲

では一期四年やられた方々にとういったような報償制度を出してある。何らかの形で生かしておるというところは現在のところないようでごさいますか。それはほかはないからそれでいいのだということとは決まっています。ごさいます。今後研究いたしましてなるべく御趣旨にとうようは市当局にお願いしたいと思います。

・二番(石井正君)　まあ才七条の特別事情があるところはこれによりひいというところの解釈　それから退取報償金の支給額はどんな基礎で定めたかな。おそれは館山独自で定めたものか。消防組織法は昭和二十二年にできておってその十八条に基く。云々としておりますか。今までそれが支給されなかった理由あるいは今までまた経過を御説明願いたい。なお関連いたしまして団員の出

戦時のけが 負傷についての補償認定といます
か。そういう点の調査あるいは基準等をどのような
な線においておるか。

一、二聞きますと 調査の遅いためかあるいは規定
に合わないのか。けれども何れも無いという面も
聞いておりますのでその点をお伺いしたいと思います。
消防署長(岩田実君) 才一氏の七条の「特別事情が
ある」という条項でございすか。それは報償制
度でございまして必ずしも権利義務の関係を
生ずるというものでございまして永年の御苦労に
対して報いるという趣旨のものでございすか。これは
才六条のようなこともありましたいろいろなことか予
想でござるわけでございますのでこういったような頃か入
っておるのだらうと思います。具体的にちよとお答

えでまゐりて申し分けないと思ひます。それから金額
でございますか。お、さう通ひそれは国で定めたりも
のでございます。国の方から条例準則がออกมาして
これに基いて提案したわけでございます。ほとんど
全国これに準じておるわけでございます。ただ金額
の根拠という事でございますか。いろいろ考へる方
あゝわけでございますか。この金額についてもやはり
国で示した額でございます。それから退取報償金
制度が判定された経過について話せという
ことでございますか。これは消防組織法の廿二条
の八で規定してあるわけでございますか。十五
条には消防団員の公務災害補償。頃かあるわ
けでございますか。これはすでは消防組織法でま
す。したところから公務災害について該當するよう説

明してお、たわけでございます。これが本年の三月三十一日より公布施行されたのでございましてその前にはこういうような優遇措置についていろいろ消防団の方から何年来要望があつたわけでございます。ようやく今年になつて法制化されたわけでありまして、才四度の公務災害の支給が非常に遅いというお話をしております。これはやはり消防団員と公務災害共済基金というのかございましてここに申請いたしましてこれから支給されるというたでまえになつております。故が発表いたしましたから、実際には支給されるまでは約一ヶ月程度の期間かかるわけでございます。か、そういうことになつてくるためになさべく早く手続をいたしまして団員の方に御迷惑のかからないように考えております。

・二番（鈴木正一郎君）一つ御質問いたします。消防団員の身分の神償（しんぎやう）というところから永年の懸案だ、たと思っていますが、こういうふうには考えられてきたというところはまことに嬉しいと思います。それをくれるという段取りになります。たとえば勤務評定ですか、そういうものか、あつてそれに基いて成績（せいせき）のいいものとかわるいものか、という区別をしてくれるか。そういう成績（せいせき）一覧表のようなものはあるのかないのかあるとすれば結構でございますか。はいとすれば、それから、そういうものを作る考えがあるかどうか、そういう、たすについてお伺いしたいと思います。

・消防署長（岩田実君）お答えいたします。団員のうちでも非常によく精勤しているかたといろいろの関係で、ないない出られないという方とあるわけでございます。

す。才一氏の考課表と申しますか。出勤の記録と
いうようなものは分団あるいは部によつてけ、今でも作
っております。

それでこの報酬制度を実施する上におきまして、この
条例でしめすようにいろいろ制限条項もあるわけで
ございましてこれを完全に実施するためにはこういった
ように勤怠のわかるようにしては御座らないとい
うふうに考えるわけでございまして、この国から示さ
れました向答等によりまして、大体火災訓練
そう、たしうにつけて、純出動回数の三分の一以下し
か出勤されないというようになつても、退取報酬金を
支給するということは適當であるといふうなことが
うにござりますか。そういつたような面も考える
わけにございまして、やはりある程度の勤怠の記録

というものは将来作っておく必要があると思います。

・一六番（関武夫君）二・三お尋ねいたしましたと思いますか消防署長さんに才四条の解釈具体的に御説明いたしていただきたいと思ひます。

それから助役さんにお伺ひしたいと思ひますかこの報償金を支給する場合市の予算から直接出ていくものかあるいは共済組合に掛けておけば組合の方から出るものであるかという点の御説明願ひたいと思ひます。

・消防署長（岩田実君）才四条を具体的にどういふことでございますか連続して勤務されておる方には昭和三十六年三十一日づけでも

て消防団員の名簿を作成いたしまして、
これの消防庁の方にあるいは県の方に参
っておりましてこれに基いて算定されたわけ
でございます。過去において消防団員として
勤務されました一端中絶されました再入団
される場合でございますか。これは過去に
おいて十年間やられましたところの四月以降再
入団されました十一年以上勤務された場合
は例えばその方が退取時に副団長でそう
して副団長の階級になられたりか二年前に
すでに副団長になられた場合には、これは退
取の際に副団長としての十五年以上二十五年未
満の四万円の退取報償金かその方に支給され
るということになるわけでございます。

ただし書はすでに前に退取報償金の支給を受けた場合にその支給を受けた期間は今回の退取報償金の対象にならないというわけでございます。

館山市の場合過去において消防団員に退取報償金を支給したということはないわけでございます。してですから館山市の場合過去において消防団員の取にあつて今後再入団されて一年以上勤務された場合には過去の在職期間と今後再入団の在職期間の今回の退取報償金の支給の対象になるわけでございます。

・助役（小出武男君）才二矣でございますが退取報償金の条例によつて支給する限り市におきましては基金に年間繰り入れます費用以外

には使用いたしません。本年度予算でお願
いするとう事でございすか。これは前年度の定員
四百八十四名について一人当り九百円というのが精
算の基礎でございまして、それだけの市の費用
であるというふうにお考えいただきたいと思います。
一六番（関武夫君）ただいまの答弁聞き解いた。ま
た、そこでもう一つ伺いますか。今年の四月一日以降に
退団したものの、十五年以上になつておれば当
然支給されると思ひますか。その場合の共済
組合の掛金ですわ。これは三月三十一日以前
のうちに對する掛金はとうなんでしょうか。

。消防署長（岩田寅君）お答えいたします。昨年
度の掛金は前年度の十月一日現在の消防団員
数によつて次の年度の掛金を掛ける。というい

たようなことになつております。ですから三十九年度は昨年度の十月一日現在四百八十四名でありますのでそれ掛ける九百円、こういう額で三十九年度基金の方に支払うことになつてあります。

一六番（関武次君）今年の四月以降やめたものの十五年以上であれば出すわけですね。それに対して掛金は本年度一回しかやらないわけですからそれで組合の方からそういう人たちにも払ってもらえるものであるかどうか伺つておるわけですか。

消防署長（岩田寅君）確かにあつて、通つてございましてわれわれもその実昨年度を基準として次の年度に掛金を掛けて支給される

のかという問題が生ずるものでありますか。その
疑義回答を見ますと、例えば昨年十月
一日現在で条例定員が市町村でまゝ、
おりますか。その後において減、増、多
なりする場合がありますか。
そう場合でも昨年十月一日現在の定数でも、
て掛金を出してそれでいいのだというような疑義
回答に明記しておりますので不足の場合には
国で不足分を補助してくれる。こういうふうに
考えてゐると思ひます。

一六番（内武大臣）助役さん。今の御答弁でいいわ
けですが、私の心配するうは恩給組合の例を取
りますと過去に遡及して掛金を出すわけです
ね。それを今度の報償金に限り過去のものか

なぐて過さぬものかもらえぬかどうか。

・助役（小出武男君）　その実につまみして私くらゐしくは存じませんが四月一日からやめたものについては完全にできる。この条例を出すところにもそういうことを考えたんですか、仮りに本市会に出さないで九月に出した場合にそれ以後に適用にたつたということを出さなければならぬので各市ともこの議会に提案しておるようでございます。

最初の年というのはそういういろいろなことがあると思いますか、相手の消防であるし金額がたいしたことでもないということもいえると思います。

やはりこの条例通りに今入っておけば四月一日からそのものは料金はしなくても出すというふうには

私とも考えております。

・議長（里川佐太郎君）おはかりいたします。本案はこれにて質疑を打ち切り、討論省略。本案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶものあり）

・議長（里川佐太郎君）御異議なしと認めます。よ、て本案は原案通り可決されました。
暫時休憩いたします。

午前十一時 九分

休憩

午前十一時二十分

再開

・議長（里川佐太郎君）休憩前に引き続き会議を続けます。

日程才六議案才七十六号 議案才七十七号
 議案才七十八号 議案才七十九号 以上四議案
 に列する質疑を願います。

・二七番(嶋田繁君) まず一般会計補正予算に
 ついて歳出の二中プールの問題。それが七百五十万
 円。もしも地元から半額以上の寄付がござい
 ます。この歳入歳出に関連いたしまして、質問い
 たしたいと思ひます。教育施設は又家庭におき
 ましても自分を節約しても子供のための教育と
 いうことにいっておりますから、設備を加えてやるこ
 とは結構なことでありませう。

そこで二中はプールを作るといふことになり、しかし
 それを計画いたしますには本市には中学校の
 七つございます。このうち、南中学校は学校

のもうひとつ市のものでもないんです。大きなプールがあります。しかしこれも管財局のものです。あ、て地元のほうはいろいろ払い下げをお願いしてあるんです。払い下げもかちわす。この使用もかちわす。現在におきましては、あるいは明るい見通しかついたかもいれませんか。数カ年の間、とういう経過であります。

何はともあれ、房南はそれでいいと思います。その二中をやりまして、それ以外のもうかまた五校あります。それは各学校に普及しければならぬものである。従って、二中のそれを建設する時には、まず全体の館山市全体の中学校にこれをつくってやる。こういう前提のもとに、かりした計画を立てなければならぬ。この計画が、みんな

と立てられておりますかというが、立てられてどうしてまずカーには市にかかると。こういったすじになつておりますのかおありまう。たならばそれをここでお聞うしたいですねカー一矣。

二中は地元から四百万です。非常にとつていう莫で熱意がある。熱意という莫につまづいては二中の学区の人たちももちろんございます。

しかしそれは、各学区う人はみんな熱意を同じに持っております。平等であります。ただ建うのはそこに住んでおります。PTAといひますか父兄といひますか、そのふところ工合の平等ではないといふことあります。そこで二中のプールは多額う

寄付がある。それはその方たちに敬意を表するけれども、しかしこれもよほど考えていかなくてはなら

ないと思いますか。ともかくとういった寄付徒、
今後は他にやる時にはやはりとういったところから
を基準におきまして、寄付がある場合にと
ういふ考えでありますか。こういう施設はむろん
財政の都合もありましようけれども、館山市費と
も、てやるべきものである。従ってこういうふうなや
り方。これを基準にして計画をお立てになること
やれるところとやれないところがある。やるに
あつたとは残されていくところが出てくる。こういう
ことであります。

従ってほのう計画をいたしますもの、やはり地元の
寄付というところをお考えになつてのことであるか
それか一矣。

もう一矣。これはかなり大きな額であると思ひ

ますか。それは当初予算に計上すべき問題である。
それだけの抱負経緯をもって十分慎重にいか
なければならぬ。それが突如としてこの補正予
算によってまた。

そこでお伺いしたうはいつ着工していつ喚びより
ますか。私の考えるところでは今年の夏に生徒の
これを使う期間があるだろうか。あったところで
もわずかな日数であるというふうに推測する。

そうしますと何を苦しんでそれを突如としてこの
補正予算に担ぎなければならぬのか。それだ
け急を要する問題であるかどうか。その英を伺い
ますよう。それがオ三英。

もう一英教育施設は大いにやっていただきたい。
そこで学校全体というものを見わたした場合に

雨漏りそうしてドアがしずまないで困る。こういうことも聞いておられます。

そこでプールも大事です。大事なればよく神正予算において以外な勇氣をもちます。私はこれを見て見ます。

ところでこの際申し上げておきたいことは学教によつては結構です。大いに賛成です。

教育の一番主体にひるという自信は持つております。しかしその施設たるや軽重前後というものを深く考えましてとつて重いものから重実的にとれを解釈していつてやる。

こうに思いを寄せていたただきたい。

そういう意味からいつて今回のものを例に取りますれば二百七十万市から出す。幾らうもうても

ない。それであれば結構です。しかし、軽重前後
というものを考えて 例えは百万でも二百万でも
積み上げ式といいますが、繰り越し金も持
ていてそれに備える。あるいは大破したと
う校舎あたりを作っていく建設資金というよ
うな方には法的にできる。私は思いますか、

そういうものでも、しらえてそうしてやるという
ような気持ちの必要ではないだろうか。こう思いま
す。従って、軽重前後を考えた結果、プールか
も、ともう、そう、際重要であって、それを才一番
にやらなければならぬ。こういう見込みを立て
た上で、うることであるか。それをお聞きいたしま
す。

お答えいたします。最初、計画的にやっておるかという
や質問でございますが、いつか私も長期計画の概
略を御報告いたしまして、たゞその際、基本的な考え方は
学校教育上にプールは必要であるという観点から、
基本的な事項にこの計画を持ってございます。
プールの施設ということは持つてございます。

第二点、寄付金があった場合はどうする。あった場合に
考えるか、こういうや質問のようでございますが、必ずず
しも寄付金だけに我々は依存しておりません。むしろ
基本的にはあなたがおっしゃるように軽重を考えまして
あらゆる緊急度を考えまして教育上、何か一番必要
であるかということから割り出しているわけでございます。
一かゝながら、何と申しましても市の財源、それも教育
育費も使用限度がございますので、その財源に――ばら

いるということが実績でございます。

三点当初予算には組まねいではねいねというごもつともな
り、實向でございますが、再三申し上げるに、私
どもプールが教育上に必要欠くべからざるものであ
るということは十分認めておりますけれども、現在市
がお話のように危険校舎を大へんたくさん持つてお
ります。そういう情勢下におきまして、ニ中プールとい
う問題が三十八年度から白頭して参りまゝなときに、
教育委員会は時期尚早であるという結論を打ち出
なわけでありまして、従いまして三十八年度の予算には

計上できません。三十九年度の当初予算にも計上
できなかつたわけでございますけれども、市役所市長より
財源を捻出してやるというお話がございまして、これを
上程いたしまして、中審議をお願いいたしてあるわけでござ

ございます。

第四点の軽重を考えて、こういうことでございしますが、その通りになっているわけではございますが、雨漏り等、小破修理につきまゝでは、わずかな予算ではあります。が、やっております。なお、十分でないことは認めております。

この点につきましては、予算獲得に努力いたしまして、まず第一に雨漏りや解消、大体解消、なと聞いています。が、大きな雨があったり、風のときに、学校によつては、いまだ漏る箇所も皆無ではございません。

こういう点に将来にいたしまして、全市の学校が正常に授業の運営ができますように、教育環境の整備に今後いっそう努力したい。かように思っております。

二七番（嶋田繁君）重ねてやり質、いいたします。

教育委員会においては計画通りであるということではござい

ますが、一からば、はなから学校には、いつおやりになるつもりですか、そうして何年でやつてしまつて下さいますか。それから地元は、おさめでもということですが、むろん、二は、本体でございます。二は、今、言明がございまして、私も非常に多といたします。

おさめでもやつてゐるという考えであるそうですから、また、ゆゑ言明があつた以上は、それを実行なせることを信頼いたしまして、そうところには満足いたします。

それから第三点は、補正予算に二を組まなければならぬという急務、もうかどうか、その点先にも言いました通り、いつできより、もうして、そうしていつ頃着工、完成させていくという見通しを持って、おめらされてゐるのか、その際、本年度に間にあうか、間に合つても、ちうとだ、それを補正予算にまで組んでゐる。その気持ち、二を的確に、

かいていたのだと。

それから、最後の問題ですが、これは、答弁を求めますまい。
その程度にしておきましょう。

・教育長（工藤和子君）

お答えいたします。いつほかの学校のプール
をやるか、こういう御質問でございますが、
実は長期計画には非常に打ち込んで
おりますが、できるだけ正確なデータを出さ
なければならぬという計画から目下建築
課の方にはあらゆる学校のわれわれ考えてお
ります施設の工事費の算定をお願いして
おります。まだそれか出ませんので私ももう
考えといたしましては、大体三十八年度の学校
建築費をおさえて、その中に大体入るようには
なれば織り込んでいく。こういう考えであります
ので、その算定かできませんことは、何年にも
れをやるということは、今言明できないわけでご
さいます。それからいつ着工して完成はいつかと

いう御質問でございますか。それは専門的家族
師の部しにります。戻りたえ月の市会でお認め
をいただきました。場合には直ちに着工いたしまし
て、大体五ヶ月かかるそうでございます。して九月に
は竣工できるということでございます。

・二七番（嶋田繁君）私いつでるという。それは中
のプールにもそうですが、各学校（のプールを）作っ
ていくという。これはどんな計画でいておるのか。具
体的に一年なら一年の間に、二年なら二年でや
るか。それをして、お伺いしたい。また計画は
あるとおっしゃる以上、その計画のなぐてはいけ
ない。そういう信念、計画というものが、どういふう
になつておられますか。それをつぶすにはお伺いしたい。
それから当初予算にも組まなかつたのを補正予算

に組む。それだけふるふるフルか他に先行いた
し、してそれだけ急施を要するかそれを最優
先にお考えになつておるか、それよりもと優
先すべしものかあるというふうなお考えかあ
りますかというか、その実は、よりとすべしもの
があるというふうなお考えかありますか
というか、その実は、よりと。

・教育長（工藤 和平君）最初の御質問の他の
五校に対していつとということでございますすけれ
ども、これは先ほど申し上げましたよう
に基本的な算定がございせんので、ま
り申し上げかねますけれども、私の案と
いたしましては、三十九年度を起算として
四十六年度までの八カ年計画の中に織り込み

たいでございます。

オス英のもっと重要なことかあるのではないかと
ころころととおっしゃいますけれども私は
やはり学校教育環境の整備については、優先
すべきものの確かはあると思います。その予算
か我々の能力のため獲得できません。た
うで今度はその中のフルのためには予算を捻
出してやるということ追加計とを見たりして
ありますけれども現実的にはやはりその前
にやるべきものは若干あるという。気持は持って
おります。財源の関係で獲得できなかったと
いうところと現実でございます。

二十七番（嶋田繁君）それよりもっと重要な
ものがあるというように仰答を今なさいました。

しかし予算がないということでごさいます。
これは市長さんには私は申し上げたい。こ
れよりもっと優先すべきものがある。あら
けれども予算がない。アールズには予算があ
る。しかも突如として補正予算に盛ってゆ
く以上は私はさう、いい過ぎかもしれない。感
何だか私の考えですが、ふところ次才という感
じさえおこります。そこでこれより先行するもの
あるという教育委員会のお話ですから予算
がないということになっておりますからよくおわか
りだと思えます。

さういふ含んでいただいてさうしてだれか見て
も納得のいくようにやっていたらいい。これは
希望で質問から離れましたが、以上で質問を

打ち切りをしよう。

・二九番（鈴木市蔵君）教育長さんに質問してみたいんですか、その前に教育面に対して最近二、三あったんですか、そのたびごとに委員会の意向によってやるんだから私には確定できな
いという事をしばしば私は聞いておるんですか
まず教育長さんと委員会との関係を明らかにしてから質問したいと思ひますかその事を御答
弁願います。

・教育長（工藤和平君）教育委員会と教育長の権限という事にしろると思ひます。これは御案内のように私は教育委員長会の方事務局の頭とい
なしまして教育委員会決定され事務局を執
行する機関であつて解釈してあります。

そこをプールの問題 七百五十万という予算は膨大な予算である、この予算は当初に当然組むべきものであると思うか、という理由で緊急を要した問題であるか、ということを七番議員

も同じ意見を持つておる。

又一番に館山小の給食も本年度予算がない。六月には追加かでないというような事。それかやれないでプールならやれるという予算とそれと同時には教育長さんは私の考え方としてはいまう。た。なせならはいつも予算がないというて教育面では相当な障害物にやうておると思ふ。

今度のプールの問題は一番最初確か二十九年あたりは一中に貯水池を作る。我々は貯水池を作るならばプールと同じようなものを作つた方がいいではないかということで市当局にもお願いし教育委員会にもお願いしておる。それか流れてしまつて急に二中の事をやる。それはへんな問題ではないですか。どうみると二中が中心では

二百七十万円。そううう寄付をするからやる。
そうして貧乏人うところは一生教育工せよと
いうことになります。それを父兄の方かみたら
どう考えらるか。

それはエ中々予算をくむならは一中のカタ
も了解しておくべきだと思う。一中の先きだ。
と同時にもう一つある。

今度神余にフルの当初の予算がくまれた。

あれは一銭の市費も出していない。

政府の補助と地元負担金によってフルの作
られていくということをお願いしたい。

この教育長さん あんたはどう考えるか。この
点だけ質問してみたいと思います。

・教育長（工藤和平君）お答えいたします。神余

プールの問題につきましては地元と申しましても
PTAが主体でございますのでPTAで作
りたい。しかもできるだけ早く子供に泳かせ
るために我々の力でやる。こういう最初はお
話でございしました。それで少なくとも県費
の補助の手続きはせよ。こういうことで国県
に参りましてその構想を述べて県費の補
助の内諾は得にわけてございます。

けれども事情はそういうわけで市の費用
は掛けなかった。そういうわけにありますけれ
ども今になりますと情勢の変化を私認
めます。従いまして今後市当局とも十分話
し合ひましてこの問題は再検討したいとい
うふうに思っております。

・之尤番（鈴木市蔵君）神余のプールについて
ては再検討したいということを、神余の区民に
から、てお札をいっておきます。どうもあり
かとうございまして。

それから、次々市会になりまして、ぜひ教
育委員会、委員長を呼んでいただきまして
討論士していただきますようにお願いいたしま
して、質問を打ち切ります。

・議長（黒川佐太郎君）午前中の会議はこれ
にて休憩いたします。

午前十一時五十七分

休憩

午後一時

五分

再開

議長（里川佐太郎君）午後九時出席議員数三十一名休憩前に引き続き会議を開きます。

九番（鈴木市蔵君）さき、プールの問題市長さんに伺って見たいと思います。

さき、プールの教育長さんの御答弁の中に、予算は市長さんの方にあるからくれというように、なことがある、だから組んだのだというように、御答弁がある、たんですか、このプールを作るといふことは結構だと思ひますか、それに対して市長さんにお伺ひしたいこと、ほかの中学校は市長さんとしてはいつ頃、にその予算操作をしていただけけるか、教育長さんは八年というし、八年も長期

教育長さんは八年というところ、八年も長期にわたると今う子供がちょうど三回繰りかえされる。之中ばかりの課題に入、て今年度からず、といい。教育の機会均等ということから欠けてくると思ひます。その裏は私にいうまでもなくよく御存じだと思います。地元の負担金など一つ項にな、たら各中学校に付して予算操作していただけるか。その裏一つだけ御答弁願ひたいと思います。

・市長（本間譲君）お答えいたします。今うお話に、つゞきしては教育長の方から計画の発表されましたけど、また私の方からしては、そういろいろ、計画の實際でまておりません。

いつというふうにはやるかという事は従つて申し上げかねるわけでございますが、これは文部省あるいは県でも非常に補助金を出しますし、奨励しております。最近における児童の体位向上のためによく考えてやつて参りたいと考えております。

・九番（鈴木市蔵君）もう一つお伺いします。そうするとほかの中学校というものはわからぬというわけですね。見通しかたいいうことかいいえるわけですね。

・市長（本間譲君）今までまだ私の方の計画ができておりませんから、できるだけ早くやる必要があると考えております。

今いつまでとをどういうふうにするとい

う計画はできておりません。補助金がないからやらないというように考え方はしておりません。

・九番（鈴木市蔵君）最後には要望してありますが今後プールというもう一対しては一日も早く計画を立てていただきたいということがある。それから地元からは絶対に負担金を取らないというのを前提として至急にこの計画を立てていただきたいということをや望いたします。

・一〇番（辻田実君）関連して御質問いたしたわけですが、私はもう二つのアールの問題について負担金並びに市の財源の関連についていまいしくわしく説明をお伺

いたいたわけでございます。まず第一は
 うへに出しております。補助金九十三万七千円
 という莫につぎましては、国県が補助金でござ
 いますので、問題はないわけでございます
 けれども、プール建設に對しまして地え
 民の熱意というものは非常に高いものがある
 るわけで、従いまして三百八十万三千円
 という金について、財源の確保されて、そう
 して、予備金に充てただけの金があるのではな
 い、足りない分を作つてくれということであるか
 ら、補助金を逆算的に二百七十万という金の
 計上されたものか、くわしく御説明願いた
 いと思つたわけでございます。と申します
 は、さう寄付金について、それから、私、部

等においてもくれから集めていかなければ
ならないという点が残されておるわ
けでございまして、そういう面についても
しるの寄付金の場合ここで決議された
あとに徴収が困難になつたという場合
におきましてその不足額の補充等はど
うなされるのか、それらの点について十分見通
しがついたかどうかお伺いしたいわけでござ
います。

二番目にこれと関連いたしまして、その
上にありまするけれども過日の説明でご
ざいますると施設を作つた寄付金の繰り入
れによつて支出されるというところでございま
す。また、このことによつて、これは三月議会

当初予算におきまして組まれておいた。そう不足額だと思つておきかけられども、これは当初からこういう赤字の欠損額がわいておいた。その事情と合わせてここに寄付金ということでも、て支出しなければならなかつた。その裏についてお伺ひしたいわけでございます。

。教育長（工藤 和平君）才一 矢お答えいたします。予算関係でございますが、これは庶務課長のほうの説明を申し上げましたように、総額の七百五十万ということになっております。その本体工事の五百三十万であり、浄化装置の百二十七万、給水排水の工事の五十万、その中にむろん便所、更衣室も含ま

れております。合わせまして七百五十万円
の財源捻出に苦慮したわけでございます
ますけれども、国庫補助九十三万七千円と
いう額の見通しがついたわけであります。

ところで地元の非常な熱意をいただきまして
地元から三百八十万三千円いたなくという
約束を得ましたので、一般財源二百七十万円
を計上したわけでございます。

才三 庶務課長から、

・庶務課長（井場伊右衛門君）才三 莫の給食費
の関係でございますが、当初予算については
一応給食費といまして、總体的に計上し
たわけでございますが、今度那古小学校と館
山小学校のおのの消毒保管庫これを買

うというのとでその不足分を寄付をいただいで
てそうして合わせて購入するということでご
います。

・一〇番（辻田良君）まだ十分ではございませんが、寄付
金の問題についてもう少し詳しく説明して
いただきたい。今答弁でございまして、寄付金
が先にきまつたように受けられるのですけれども
寄付金の額について三百八十六万五千円がま
ったのでその不足額を一般財源として二百
七十万あれしたというように受けたいのですけ
れともう其について確かめておきたい。

・教育長（工藤和平君）一般財源の増捻出は自
然補助とそれから寄付の残額ということに
なるのでその両面からまもりませんと一般財源

は出しませんから補助と寄付する額の
確定していただく（般財源を取、たわけ
でございます。

・一〇番（辻田実君）とこうしますと私は之中
のプールの問題が昨年陳情されまして、さ
らに御質問の中におきまして、早急にや
はり学校の之中だけでなくプール問題につ
ては実現しなければならぬという基本構
想というものが述べられております。さらに五
ヶ年計画というもので消化していきたいと
いう御答弁がありまして、たわけ、早急に問題の
解決できるものだろうと思、たわけです。
三月の議会に出たい、たわけ不審な、たわけ
ですか、今回追加という形で非常に問題か

ありますけれどもこの問題の計上されたといふことは賛成でよろうでございます。しかしながら今までの教育長並に市当局の答弁で参りますとやはり教育の基本構想の中でも、てゑ々といふことが明らかにされておりますし昨年質問した場合に市の財源のなぐてといふことの答弁でして、今の教育長の答弁で参りますと、寄付金が出たのであとう不足金の方を市の方を出す。こうなると私は割り切れない面がある。と申しますのは、寄付金の額の五百八十万という中途半端で土木なんかについては、三回の議会におきましては教育費、土木費については、三分の一半額を負担してしまつたてまえになつておる。そういう問題

については感情だとか情さういうものは入れないといふことになつておるといわれますけれども負担金 寄付金の額について不明瞭なんですけれどもさう矣については今後さういふ形でも、て処理されるかと非常に困るか
さう矣についてどう考えるか。

さう三百八十万五千円といふものか、確矣に徴収できるか、さらに集める方法について地元部落の人かといふだけ苦勞しておるのかといふ
矣については教育委員会・市当局において考慮したのか、調査した事、矣があるのか、
さうの矣について仰説明願いたいと思ひます。

・教育長（工藤和平君）六月十八日づけで吉田

PTA会長の名前で本間市長宛に寄付の申し込み書が提出されております。その金額が三百八十六万五千円ということで非常に綿密な一歩も客観性のある計画を立てておられますのでPTAの方々もお力を我々は期待しておるわけでございます。

○一番（辻田実君）そうすると寄付金が集まらな
いというふうなところの中ではプールの新設工事について現状の規模を縮めていくということがあり得るか。

それともう一つ三百八十万円の寄付金を
あおぐに對して佐氏に對して圧力がかかっているのではないかと（笑）既にありますけれども、その点についてどうお考えになるか。

ニ矣についてお伺いたしたいと思います。

・教育長（工藤和平君）設計につきまして
は最初之種から出されまして、それは業
者より設計でございますので、市でそれとや
る上には公けう設計かによらなければ
ならぬと思っております。従いましてそれは
市の手にかけて厳密に設計を検討しな
おすべしというはなおす。こういう計画でござ
います。なおオス矣の圧力ということ
でございます。圧力のないように私思
います。なお金額につ
きましては私心配したうで、校長に
伺い合わせましたうでありますか。
一戸あたり三百円
平均のような話しを聞きましたうで
その額であれば必ずしも過酷な金額
ではあるま

いというふうには解釈しております。

・市長（本間護君）寄付金が集まらなければどうするかという御質問ですけれどもこれは立派なものをやっておりますして確実に入るものと確信しております。

・一番（辻田実君）之中的プール建設の場合には負担金率もいい。これは今後前例として払うのか。特例として払うのか。その点についてはお伺いしたい。

それから給食費の寄付の繰り入れについては新しい設備を入れるというところでございますけれども、これは今度の新しい設備を入れる金額の寄付金というのがあるいは市の負担金はどうなるのかお伺いいたします。

・庶務課長（肝場伊右エ内君）給食関係の
とでございますか。都府郡古小学校十一万四の寄
付でございますか。これにすでに給食費の形で
既当した資金十五万出して、大体予算は
二十八万の予定でございます。

それから館山小学校の二十八万のお願いですか
これは市費の方か。二十五万円 四十五万円
予定でございます。

・一〇番（辻田実君）之中におきまして前回の科学館
の問題さらにプールの問題と同じように扱われ
ておる。今後はかの校舎その他についてこれ
位出せるのだということか、非常に出てくるような危
険がある。

やはり一つの基準を掲げていかなければならぬ

丁Aのお人ぶりで持ち切れぬ。これに対し
てどう考えるか。

・教育長（工藤和平君）ただいまの御質問とくわります。
ます。これも、どうでございます。

われわれといひましては、あくまでも教育的に
自主的に考えて頂くのが当然でございまして、今
後の父兄の負担については、十分軽減の方向に持
っていくべきであろうと思っております。またどうせ
ねばならぬわけでございしますが、需用費の問題
で市長の努力されまして、軽減とはかりましたけ
れども従いまして、こういう面については、我々の
自主的にできるだけ住民の負担を軽減（軽減）して
本来の姿に持っていていきたい。こういう姿で進
みたいと思います。

・七番（田村源治郎君）　ちよつと伺いますか。寄付を出して補正予算を組むならば、中ばかりでなく、今後ほかにも寄付を出すという事で、いろいろ問題を処理していくが、中ばかりか、寄付をするのではない。ほかの地区においても、中の予ねとせざるを得ない。

・中だから補正予算を組むということには問題がある。教育は機会均等である。なぜ寄付行為を呼びかけて、ほかの学校にも、中のようにな行効を取らないのか。なお房南中学校のあのプールを早く払い下げないのか。

・教育長（工藤和平君）　お話しのように、教育の機会均等という立場から、各中学校に均等にプールを設置すべきという事は、先ほど申し上げた通り

りでございます。従いまして寄付があるからやる。寄付のないからやらない。そういうことでむしろ教育的に自主的に今後計画を進めたいわけでございます。

なお房南中のブールンでございすか。これは管財局関東財務部にござるならば無償で払い下けてもらいたいという交渉をいたしましたわけでございす。二十七年以来再三にわたって交渉を続けて折衝したわけでございます。

二十八年十月に私の出向を以て部長と談合いたしました結果見積りを出すという約束をして話し合いかつたのでございすか。その後返すはございせん。そこで二十九年に入りまして三月一日に庶務課の主事の出向を以て督促をした

わけでございます。そうしますと才二課長
課長の答弁は大臣の許可が必要なので
すぐに答弁できないということでございます。
最近八月九日になりました。私が部長に電
話を通じましてその後の様子をたてした
わけでございます。それは中プールにからん
で房南中のプールが先ほどでございます。
様子もただしたわけでございます。か
きにむこうの返事といたしましては、関東財務
局とろう評価の技術員を依頼してある。
従って近く評価するであろう。そこでそれでは
シーズンになつたのでシーズンの間貸し付けてく
れんか、こういう要望をしたのであります。

貸し付け申請は好ましくない。黙認の形で使用

を認める。こういふ言質を取りましてどう旨と
 中学校の方にも連絡をしたわけでございます。
 房南中学校を無視しておいたわけではありません。
 ・七番(田村源治郎君)二中みたいに不足金額を持
 てきますから。そう分は出してどうようなケースで今
 後やってくれませんか。地えでやれる場合はやって
 しまいますから。そうでない場合には市も多少の援^援助
 をしていただきたい。

不足の多じた場合やっていただけですか。

・市長(本間譲君) 寄付金をいただくことは市の方
 からお願いするということはお好きくないわけでは
 ない。しかし自発的に皆さまでの方からせひやって
 もらいたい。こういふ要望があつたときには
 市の情勢を判断しまして決定して参りたい。

と考えております。

・七番（田村源治郎君）始めから市長に頼るわけではない。不足の生じた場合に市長が援手助してやっていたたき~~作~~たい。

・市長（本間譲君）地元の要望によつてですね要望があればこちらから慫慂するわけにはいきませんから自発的に寄付をしてプールをやつてもらいたいといふことになる。

格別には考えて意にそうすようにしたい、このように考えております。

・五番（三沢節君）この中のプールは建設につきましては一応神正予算に出されたといふことについて私は無理があると思ひますか、反対はいちしません。賛成いたしますが将来起るもので

はないかということについて、この質問いたした
 と思います。

まず第一には田議員から申されました。この
 寄付が父兄の負担にかかってくるのではない。
 こういう質問に対して、工藤教育長は二百
 円見当だ。その程度なら軽くて結構だと思
 います。ひるがえって館野小学校の講堂建
 設が一戸四千円の負担だ。また四中の現在予
 算化されております体育館が四千円五百円
 寄付のくるからこういった施設をやることは
 市当局としては結構でしょうけれども市の
 行政としてどういった税外負担を各地域によ
 って差を付けて便々として今後やっていく
 もいいかどうか。

この英市長はどのようなお考を持、てい
るのか。約十倍近いところの寄付をも、
て施設はその半分だ。こういうことを
考えるときには私としては大きく取り上げ
る必要があるのではなからうか。このよう
に思います。

オノ氏は教育委員会としては工藤教育
長は前に漏らしていることは記念事業と
して学校事業を特別に計画しない。
そういうことをはつきりといわれておりま
す。しかるに今回のその根本ともいうべ
きものか、中の全国制覇をやった。その
記念事業でしかも、補正予算に七百五十
万組まれた。ところに私は何か割り切れな

いものがあるであります。しかし割り切
 れなくとも市長さんが出したとすればいい
 んでしようか。今後そういった寄付を多く
 出したところは陣情に陣情を重ねて
 優先的に市の計画に入れろということの
 果して機会均等とあの学校施設に合致
 するかどうか。それか才三英でございます。
 才三英はこの予算の中には九十三万円の補
 助金が入っております。聞くところによります
 と今年度の国の補助金は半額に減った。従
 て神戸と四中の体育館は場合によると
 計画外にならなければならぬというこ
 とに立ち至るということを書いておるうござ
 います。当初予算の一番先きに取った予算

か補助金かこないために不安を持、て
いるということ。それからこの補正予算の
之中フルを通してもしも当初に取、た
ところの計画の変更にな、た場合 市長
さんとしてはこの当初予算に取、た神
戸市の鉄筋化と四中の体育館を補助
金かこなければ 市費を出してもやる
だけの決意かございますか。もう長を市長
さんに御答弁をお願いいたしたい。

・市長（本間 義君）フルの一軒当りの寄付
は三百円。それから館野と四中の体育館
か四千円。こういうお話しでございま、てま
ことは考えられる美かあるわけでござい
ますか。いすれにいたしま、ては、もう、そう、いう

寄付を自発的に集めていただくことは非常
にありかたいわけでございます。それ
だけに必要度が高く、地えで要望してい
るわけでございます。そういう関係で予
算にも計上してや、たわけでございます。
補助金が減った場合、設計変更にな、た
場合どうするか。こういう御質問でござい
ますか。それは必ず遂行して参るつもり
でございます。

・教育長（工藤和平君）才と云う記念事業の
問題でございますか。記念事業に対して計
画しないことは、今もむかしもかわりござい
ません。

こ中のブールにつまましては、記念事業と

いう話がありましたのでそれはだめだ。
私はは、きり当時の押本校長に申し
ました。ところがいりうそう後にお
きまして必ずしも記念事業ではない。
大義名分かわつてきたわけでありま
す。理由も納得できませんでしたので今回
に至つたわけでございます。

・三二番（三沢節君）再質問いたします
の寄付が多いからそれだけ使用価値
が多い。こういうお考えは私は非常にエ
合かわるいのではないかと思います。

子供のためです。親としては幾らかか、
ても作りたいたというのはやまやまです。
そういふ寄付を各地域ごとに差をつ

けないように市の行政でこれからやっていく意思があるかどうか、それから教育長さんのお話してやらないといいますが、今後またこうい、た記念事業で陣情を重ねてこれだけ寄付を持っていくからというふうなことで絶対にやらないかどうか、こういふところがあるとするば小さい部落に任むられられなくては非常に苦しい。やはり全般から見たところ、先ほど負荷のありました計画性を持った学校施設に持、ていかないと大きな学区を持つところはほとんどよくなる。小さいところはいつも寄附行為の伴うため、付行為の伴うためにやらない。今後絶対にそういふことをやらないよう

な私言葉のお聞きしたいわけなんです
ございます。そうと申について、もう一回お
答え願いたい。こう思います。

・教育長（工藤和平君）ただいまの説は、全く私も
同感でございます。絶対そういうところあり
得ないようにはやりたいと思います。

・市長（本間譲君）教育長の申し上げた通
りでございます。

寄付すればやる目的によつて違ふと思
います。あなたのお考えはなるよう
なことは、本当に私はいいことでさうい
う線でやりたいと思います。けれどもいろ
いろ学校プールそのものによつていろいろ
状況によつて違います。なるべくあなた

意志にそうよろに今後やう参りたいと思
ひ存じます。

。三番（王沢節君）それは学校に限らない。例
えば道路にしても農村地帯の小さいところ
は個人の税外負担というもうのかか、てまてお
る。これは早速でもこの度は改善するよう
に努力してもらいたいと思ひます。

四中神戸の方はたとえ補助金も少なくなるとも
間違いないように予定通りおやりになるとい
うお言葉でありましたけれども間違いないとい
ひませんか。

。市長（本間謙君）大丈夫です。

。二七番（堀田繁君）率直に質問したいと思
ひます。答弁もそう願ひたいと思ひます。

それは鈴木議員の質問に対して教育長さんは計画を持っておるというふうなことであります。ところの市長さんは計画のまだそこまでいっておらぬというふうなことだ。ところの計画というものは資金の裏付けのなくではいけないと思います。裏付けのない計画は何にもならない。絵に書いた餅だと思えます。ところの一方は計画のなっておる。その金を出す方はない。それで計画にはならない。

私は先般来市政全般に対して、かりした計画を立てておるのかかるべきではないかということをお願いしたんです。一つをもちょうとさうだ。そこでそれらの方々は

それから十分に含んでやっていた方がいい。こういうふうには考えております。

そこで市長さんにお尋ねしておきたいと思ひます。プールは結構です。学校の子供の幸せのこと。教育のことから力いっぱいにはやってくれること。いい。こう際、軽重前後ということは申しませんが、将来こういうことは十分考えていた方がいい。市長さんはこのプールに先行すべき何物かがあること。思つておるというお考えがありますか。どうか。そういふ場合には市長さんは、こうに急激に注がれたような気持ちを持つてや、てくださいますか。どうか。それをお聞きたいと思ひます。

・市長（本間 譲 君）　その目的のものにより
ましては、やはりこういう熱意をもつてや
らなければならぬと思います。その任す
はどんな任すですか。

・こゝ番（嶋田 繁 君）　大破しておる校舎あたり
かつこつ私はあると思います。

それほ人から聞いた話ですか。先般テレ
ビに出たというところで東京都では今回新
潟の災害というものは思いをいたしまして
学校を全部鉄筋コンクリートでまずオ一
にやうてしまふというふうに計画を立ててそ
れを進めておるという話と聞いた。これに
胸を打たれた。そういう意味において率
直にいますと、その校舎、それらと考へま

すゝゝのプールより確かに先行すべきものではなにかゝる辺に思いをいたしましてくれておりますかとうか。これをお聞きしてどうしてそれらに對してはやはりくゝにけしやられたように同じ気持ちでやてやろうと云う考へかありますか。

・市長（本間議君）それは重要性の高いものによつて決定されると思ひますか。

・二七番（嶋田繁君）危険校舎とかそれらはこのプールあたりの問題よりも先行すべき問題であると思ひます。

市長さんもさういふ点に思いを寄せてくれておりますか。人間によつて違ひますけれどもこれより先行する問題がある

という考えがありますか。

・市長（本間譲君）校舎につきましてもは教育委員会の方で大体危険度によつて年々これを修理なり改築なり新築なりや、ておりますからその線で参りたいと思ひます。

・二七番（嶋田繁君）それでは教育委員会におきまして確かにここはやらなければならぬという線の出まじたらしく今うるあたりは十分考慮くださるという御決心でおられるか。ところが気分をお持ちになつておられるというものは考えていいわけですね。

・市長（本間譲君）十分考えております。

・十三番（菊井敏博君）先ほどこからこの中のパールの

問題につきましてはあらゆる質問がなされて
おるがこれ以て必ずしもないと思ひと思ひ
いますか一言之中に作つたプールは之中専
属のプールですか。その使用の範囲というも
のを教えていただきたいと思います。

それから現在市営のプールに浄化施設
をすることを志があるかどうか。

・教育長（工藤 和平君） 才一氏のプールの使
用に伴ひでございますが、その中の水泳プール建
設会というものがございまして、その募集
資金の趣意書が私にもうろに回つて、その
ておりますし、その中には、きりと希望があ
れば、北条 館山小学校の子ども使用にも
供する。さらにござるだけ、卒業生、市民並

ひに諸団体に開設する。このように書いて
おりますので、相当使用度の高いと思いま
す。

浄化槽につきましては、我々の望むところ
でございすので、これも財源関係で今後
折衝して見たいと思ひます。

・一八番（西村真次君）この中のプールの問題に
つきましては、先ほど来、の質疑並ひにこれに
対する答弁。これによりまして、学校側PT
A側も相当綿密な計画を立てられ準備
をされておる。このように了解いたしまして
そう実施に同意するものでございすので、一応寄
付に関連いたしまして、三お伺いしたいと思
ひます。

その前にまず給食施設、費用についてでありますけれどもこれはもちろん学校給食法によりまして当然市で行なうべきものと考へるわけでございますが、ことに最近厚生省の方から給食の設備に關しては市の負担に關していつ優先的にこれを行なうべきであるといふ趣旨の指示があらうように新聞でも見たのでございませうが、さうな指示があらうかどうか伺ひたいと思います。

その前にまず給食施設、費用についてでありますけれどもこれはもちろん学校給食法によりまして当然市で行なうべきものと考へるわけでございませうが、ことに最近厚生省の方から給食の設備に關しては市の負

担においてかつ優先的にこれを行なうべきであるという趣旨の指示がある、たように新潟でも見たのでございすか、さうな指示がある、たかどうか伺いしたいと思ひます。

・教育部長（工藤 和平君）給食のこととでございすけれども、これはは、まりと国の学校教育になくてはならないというような観点から全国実施の豫まで持つていきたいという熱意を示しておるわけとでございまして、その小々調べと申しますか、目下牛乳の全地区実施をしているわけとでございすか、それのどうれば給食の完全実施に持つていきたいと云うこととでございす。

同もこれと奨励いたしましてその拂線に
 してそれれも將來持ていきたいと思ひ
 ます。

。一八番（西村真次君）その指示が、あ、たかとい
 うかという英をお伺いしたのであります。か
 英はいずれにしましても、那古小に――も
 館山小の場合にいたしましても、その施設の
 半額近いものが寄付となつてけとされてお
 るわけでございますか。これは学校給食法の
 本旨から考えて、安当ではないかという、気の
 いたしますか。それもしばらく置きますか。う
 寄付金について委員会として必ず寄付とい
 たしますというような誓約書をお取りにな
 っているようにな話してお伺ひしておりますか。

実かどうか、その実お伺いいたしたいと思
います。

・教育長（エ藤 和平君）地元の寄付をまあぐ
ことはできるだけ避けたいと思うわけで
ございますけれども、御案内のように保健
所あたりからは理想的な案を持ってくる。
滅菌器というような高額なものやせいで
なえなければならぬ。理想論をとなえ
てきますので、そういう実について予算関係
でどうにもいけないということで、寄付金の
申し入れがあれば、それは受け入れるとい
うことになっておりますが、今回もそういう形
で受け入れておるわけでございます。

・一八番（西村 真次君）まことに寄付の趣旨は

その通りでありますけれども、その申し出を受けたいとおいて、それでは必ず例えは、館山小学校におけることなら、その寄付というものを必ず寄付してくれませんか。間違ひありませんかという、意味で誓約書とお取りになったという、話を聞いておりますか、いかがですか。

・教育長（工藤和平君）それほども、つい誓約書は取っておりません。私ともいいたしまして、は、財源の確保という、意味で、確かにいただけますね、ということば、いっておりますが、申し入れ書は、いたしております。これは、その場合、合も同じでございまして、誓約書だとか、期日には出せという、強制的なことはしてありません。

・一八番（西村真治君）それを取っていただければ結構でございます。しかしPTA側からしますと取ってあるだけにかかわらずある程度寄付というものを強く求めておるといふような印象とかあるいは誤解とかそういうものを持っておるようには実際に私は聞いております。

先ほどもから市長さんもお話しかかりましたように寄付というものはあくまでも自発的であるべきである。かつ任意でなければならぬ。それを多少でも強制するような面があるとするればそれはゆゆしい問題ではないかと思うわけでありまして、そういう意味で特に伺ったわけであります。

何の先ほとからの御説明を伺っておりますと 寄付に關しまして例えは八年の長期計画を持ってそろそろ必要度に応じたものから優先的にこなしていくという考えよりも 寄付のあつた方を先にする。

寄付の多い方を先にするのではないかと。そういうような疑問を持たれたような感じがあらわけてあります。

そこで七番議員の質問もそこから入っているのではないかと思うのであります。そういう印象を持たれないようにと。そういう誤解を生じないように十分処理していただきたいと思います。うわけであります。もう矢特に要望いたしまして打ち切ります。

・三五番（松本藤太郎君）歳入の点でお尋ね
いたします。地方交付税が今回の補正予算
によつて一億五千二百五十五万二千五百五十五万
補正したわけでございます。前回幾日もた
たないときに地方交付税の補正ということの
出てきた。これは結構です。あとどう位の見
込みを持っておるか。

次に政府では義務教育は国庫負担金こ
ういふとおりです。実際に施設の面まで見
てくれない。これは現状であります。われわれ
はどこまでも施設も一緒に見てもらわなければ
ならない。これを始終主張しておるわけで
ございます。現実にけ全く見てくれない。プ
ールの問題についても、館山市議会でもいろいろに

いろいろ出るということもそういたところの原因
 としておる。こういうふうに思ひます。従ひまして
 給食室の施設でもあるいはその他の教育
 施設でもこういう美を学校当局あるいは父兄
 にはいませるならば教育施設の完備したところ
 まで勉強させようという意欲考えるは無
 限です。そのとくに今いたように貧弱財政の
 館山市についても固は全然見てくれない。た
 だ九千五万しか出ていない。

こういふところに原因してると思ひます。従ひま
 て市当局で今後今申し上げましたような施
 設を今後やっていく場合において一体どの
 位の何千何万の寄付をお願いしなれば
 市の財源としてはでまなくなるのだといふこと

を持っておらなければ今後さらに紛糾の
幾くと思う。そういう点について申す先
ほども同僚議員というものがほしいというこ
とではないか。

之中においても三百八十万五千円その他に用地
買収百五十万とも開いております。

五百五十万という金が地元民に負担されて
おる。現実にはこういうことの出てくる。今後出
てくる問題について寄付金のないところをや
るということもいっても現実にはあり得ないこ
とだ。

そういう場合にどうやって寄付金という見解
を一つおとし願いたい。くれの才三郎

最後に休養施設から二百二十万一般財源

に入っておりますか。それは当初から予定した
ものかどうかとの点をお尋ねいたします。

・財政課長（長谷川君）才一氏の地方交
付税についてですが、これは現在試算中でござ
います。また正式決定のございませぬし、過日
の新潟地震の関係で私も出さず数字を若
干の狂いがあるというふうに考えておりますが、
私とも財務的にはじいた数字を申し上げま
すと大体一億八千万というふうに考えており
ます。このうち全部かくるということではな
く、その何％ということでございます。
はっきりした数字は申し上げられませんが、約八
万円から一千万の伸びがあるのではないかと考
えております。

特別会計休養施設の繰り入れますか当初
には見込んでおりませんでした。大抵一般会
計から三十五 三十八年に繰り出しといま
した額が本会一般会計から五十五百八十
万ばかりございますので建設費は別として
黒字になった場合にはどう程度のもうは一般
会計に繰り入れをいたしたい。そのように考え
ておるわけでございまして 昨年も二百万円
で
すかやりましたでございします。

。庶務課長（平場伊右衛門君）才三氏の申請
の国庫補助の關係でございします。これ
は県の方から決定の通知が来っておりますので
ございます。補助金額が九十三万七千五百円
でございます。その補助の対象経費というものは

二百八十一万二千五百円。これだけおさえて
あります。

それとしますと大体3%ということになります。
三五番（杉本藤太郎君）答弁かもしも重要な
答弁かぬけしてしまつて残念なんです。もう一ぺ
ん申し上げますと、教育施設に対する場合
全額公費負担ならば問題ないけれどもも
っと身近かな大事なものかほとんど国の出し
ておらない。

従つて館山市でそれを行なう場合にどう位
の地^元負担といひますか。そういつたものをい
う位、卅パーセントと市当局でも、て今後
望むのかそれを伺つた。それからたないまの
二百八十一万二千五百円を基礎にした三分

の（た）ということですが、二百八十一万二千五百円
といううは御計画を出したんですからという
しうを作るんです。本体が五百三十万 浄化施
設が百六十万 暖房が五十万ということで
七百五十万というふうにわけわけは理解し
ているんです。今言った二百八十一万二千五百円
を基礎にした三分の一とはちよつと楽屋裏の少
かりませんので。

・庶務課長（平場伊右エ門君）才二英の国庫
補助の関係でございします。補助対象の経費
一応二百八十一万二千五百円といひますのは補助
の内定額が九十三万七千五百円に對する経費
の對象額でございまして、實際にすれば国
庫補助として割り当てられた額でござい

予して私の方申請は大体当初の計画六百五十万という計画で一応県の方に申請者を出してございます。

・助役（小出武男君）

地え負担金の割合でございすかこれにつまましては当初から予定して立てておりませんでその都度財政の状況を見まして立てておるのか現状でございす。従いまして道路あたりを見ましても二分の一から六分の一に差をつけております。

学校にしましては教室はもちろんだたてすか講堂などですと二分の一ということになつておりますか原則として一つの事業をやる場合に起債と補助金を除いた半分

ということとを従来目安としてやっておいた
のでございす。先ほからいろいろ御
意見もありますようにさういった地え負
担金の額をなるべく減さうというのが市の
考え方でございす。

まはその市の財源、政とその年度におき
ます任すの絶対量、それとの比率にら
あわせによつて若干の甲乙が出てくることに
なるわけでござるだけさういう莫を減ら
していく考え方でございす。

。五番（松本藤太郎君）すぐにお答えで
ないということは何にも持てないからだ
という事なんです。側溝溝などの場合大体
三分の一あるいは四分の一とかいろいろありま

す。は、まり課長さんは壁々といっております。
いわれてもそれではいけないうたと
いうことを承知でいっておるから気持ちいい。
将来はなおさなければならぬけれどもし
ようかございません。というので気持ちがいい。

今の場合そういう一つの見解かないうでです。
こゝ、中学校のあるのにそういうふうになつて
きますとこれはプールだけではない。講堂の
問題も出てくる。給食関係も出てくる。
そういう場合に、かりしたもうでおのちの
出すべきだ。もう一べん財源云々という
ことでそのときによつてなおります。そういうことで
むづかしい情を話してこれこれだというもので
は、まりお出しにむけたるの非常にいい。

今後作ろうという学校なり学区民なりという気持ちになる。そうして実際の各区民の人数によつて非常にアバランスが出てくる。そういうときには、それを理由に多く市費を出してやるべきだ。原則としてはやはりしつかりしたものを出してそうしておやりになるべきだ。これは市当局でなく政府そのものかわるゝ。館山市だけの問題ではない。全国そういうことが出ておる。

これは市当局でなく政府そのものかわるゝ。館山市及びの問題。そういう点でぜひ近い将来教育委員会に一つお示しになるようお願いしたい。その点の考えをお聞かせ願いたいと思います。

。助役（小出武男君）杉本議員の御質問ま
うとにございましてと思ひます。

先ほど申し上げますように予算の関係でやむを得ず地え負担という制度を取つておるわけ
でございまして、毎度申し上げますように財源の相
当あればそういうことはおのずから解消する。
こういうことになりますが、しかし現実の姿とい
ふとして、各種の事業ごととにそれと違つた
率をやつておることは事実の姿でござい
ます。ある一つの同じケースの仕方について
は地え負担の幾らだ。こういうふうには自
然と安んじておる。市の方から見ては非
常に便利だと思ひます。で、この裏につ
つと申しましてはもう少し研究いたし

まして学校の校舎については大体どれ位
何についてはどれ位という一応の基準を立
てましてやって^{つぎ}い。このように考えており
ます。

従来いろいろですと一応当初予算にくみま
すけれども非常にその間に誤差が多くな
りあるいは量が多くなったりしまして所定
の予算で足りないということになると先ほど
申し上げますように補助金と起債を取った余
りというものが非常に多くなる。従いまして
地元に御負担をかけるという結果になり
ますためにその額というものの不安定であ
るということかいると思ひますので今後そうい
う面について研究して見たい、このように考え

ます。

。五番（松本藤太郎君）私はこう申し上げ
たうも多額の寄付金を受け入れようし
て更に間に合わないプールを出ようと思ひな
か
た。

三月の定例会においても通告質問において
税外負担をなくしよう。これに対して市
長さんも税外負担の軽減をはかります。こ
う市長さんはおっしゃって、たんですけれど
一銭もとらずにやるということが果してでき
るか。確かに市の財政の中かわかるので
すから、そういうふうな混乱のないよう
にしてほしいということをお願いする。

しかしあくまでも寄付金というものは取ら

すに道路にしても学校施設にしてもこれは原側である。どう更御銘願いたい。

。――番（石井正君）いろいろ出まうしてその中のプールを中心とするプールを作ろうは賛成だけれどもということでは計画のなさに對しての批判が非常に多くあります。どう更については今も松本議員から出ました。教育委員会に前々から重要しておいて長期計画なるものを示してくれということとされており、先ほどの話しては大体できておるようではございますが今までに文教委員会・全協には示されたい。その更は、どうでござるかいつ示すつもりなうからこの更をお伺いしたい。

それから市長さんは財源措置については前回

には、ろりと教育委員会かけ画に対して全面的に協力するということをは、ろりと述べられてある。議事録を見ればわかる。そういう点で一日も早く示してもらいたいというすの一英。それから付随しましてろろ補正予算に出ていない大きな問題とここに提起したい。これについて仰答并願いたい。

当初予算案に出ましたいわゆる小修理の予算の問題です。これは教育委員会にいろいろもとうけしつりません。で市長さんにお答えいただきたいと思えます。

現状を話しますと本年及の小学校の小修理に充ててある予算が百万円、中学校五十万、合計百五十万、小学校十三校でござい

神正に小修理の神正の出でくると思つて待つておつたのですか。それも出ておらないわけですから、このうまいについて執行部は委員会からどんな話を聞いておるか。どんな現状を把握しておるか。

。教育長（工藤和平君）御質問の才一英の長期計画かいつ頃かというお話してございますか。これはたいたい申し上げますように三月の教育定例会において一つの線が出たのでございします。その後いわゆる不適格校舎というものに對する国庫補助の助成の決定（まじ）たり。また三月定例会におきまして一部木造建築の計画を發表し、幸いにいろいろ御意見がございまして、それらにかゝるいろいろなお

一の必要に迫られておる。それらを含む工事費の算定と建築課にお願いしておるわけでございます。

それか、で、次才教育委員会にさらにかけ、それから関係団体の皆さん方の御意見と聞いて不始のものにしたいというわけでございます。

・市長（本間義君）学校や修理につきましてもはくわしいことは私聞いておりませんかと。こういう重要度の高いものにつまづいては予算のもしもくなれば追加しても、マッて万全を期したいと考えております。

・一 角（石井正君）今市長さんのいったようによくわかったんです。委員会の方もよく市長に話

― して早急に小修理を急ぐように要望して
きたいと思ひます。

今までのもうひとつの辺までという計画をお
持ちかは、やりさせていたただきたい。やらない
ということでは納得いかない。

今までの百万円をこんな計画でいつ頃大体小
修理をやるか、計画をは、やりこゝに示して下さい。
・ 庶務課長（平場伊右衛門君）小修理の關係に
つゝ―――は現在小學校百万のうち配當し
てあるのか、二十五万大体七十五万ばかりの手持ち
があります。

中學校は五十万のうち二十五万配當いたしま
して二十五万の手持ちを携、ておりますので
これと七月に入、たならば、新の年で回ります。

て現在奥学校からたくさん修理の個所の要望が出てきておるのでもございます。それを参考にしたしまして重要^的なものの範囲を一心修理したい。ところふうに考えております。もうしてもそれで足りぬ分は追々予算にお願いして修理をやつていきたいと思います。考えてあります。

・五番（田中祿郎君）このプールの問題で大へん御意見の出ました。教育長さんにはお付のあつてもなつても全力を尽すというお話しでございます。さうさう。九番議員さんの神余中学校的プールの問題をお出しになりました。たかきとき情勢がかわつてきたから再検討の必要があるということを申

されておったのでございます。

北条鑑山の方たちから三百八十萬の金を作る。神余の人の二百五十萬の金をつくらぬのみないわいい子供のために孫のためにしようなく作るというふうなこともあり得ると思うのでございませぬ。その裏からいいますと、中のポールに判しては二百七十萬の補助が出る。神余に判しては何にもないということから、現在の状態でございます。市長さんにおかれましては全部の市民の子供でございまして、とう部落の子供のかわいくてとう部落の子供にくいというふうなことはおそろしくない。全部同じであるというお考えになつていらつしやうと思ひます。神余のポールの裏に判しましても、もう一つお考えな

さうしていただきたいたいということをお要望申し上げておきます。

それから教育長さんに伺いますか保健体育費でございますか十五万という県の体育大会の選考派遣費としてとほしい予算のうちからちやうだいしましたことはわれわれ体育協会にあつたものは非常に喜ばしいことでありますかそれと関連しまして千葉県小中学校体育連盟の館山支部というものが三十七年にできております。安房郡にも館山支部というものができてゐるのでございます。それにつづまして小中学校の体育連盟というものは競技大会とか体育研究会等をやるのでございますか、三十八年度から全部千葉によひまして県

いう學ぶたる市名うせツケンで活やくしてお
るのでございます。その点からいいますと、も
市でも、まあ程度々めんどうを見てやつたら
どうかという考えでございますか。
その点につきまして教育長さんうお考えをお聞
かせ願いたいを思っています。

・教育長（工藤和平君）

ただいまうお話しでございますが、私もかつて安房
高にござったのになります。たまたま生徒を幾人し
か県外に派けんいたしました。お話しのような非
常につらい経験をもつております。その体験
をてらしまして市当局にお願いしてあまり
PTAに依存しない。歴々の余力を携つてた
たかえるというのの理想でございますか。

たけ送りの負担をかけずにやれよう努力したいと思っております。

。五番（田中祿郎君） 市長さんにお伺いします。教育長さんから強いお言葉をいただいたというところでございますが、PTAの負担で送りと派げいたしますと、PTAの会費というものが派げん費にとられて運動用具をかうこともできないし、クラブの充実等欠けてくるというわけでございますが、市長さんはこれに對してどんなお考えですか。お伺いしたいと思っております。

。市長（本間義君） はじめて伺いましたけれども、あとで相談いたしましてやっていたらいいと思います。

。議長（里川佐太郎君）

おはかりいたします。

本案はこれにて質疑を打ち切り討論省
略。原案通り可決するに御異議ありませ
んか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

議長(黒川佐太郎君)

御異議なしと認めます。よって本案は原通
り可決されました。暫時休憩いたします。

午後二時四十四分 休憩

午後三時 五分 再開

議長(黒川佐太郎君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

食山司諸令

本日の会議に議案ヤハ工号が送付されました
おぼかりいたします。これを本日の日程に追加し直
ちに議題をいたします。こゝに御異議ございせんか
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

御異議なしと認めます。よつて日程は追加されました
議案を配付いたさてです。

(議案配付)

議長(黒川佐太郎君)

議案の配付漏れはございませんか。配付漏れ
なくと認めます。

(書記朗読)

議案案ヤハ工号 市道路線変更について

土木課長(新井重助君)

にたいし追加議案をいたしよろしく八十一号について御説明申し上げます。図面がございしますが、電信電話局がこのたび自動化切りかえということになりまうたので青く塗ってありますがこの市道でございしますが、これをまたぎまして、庁舎を建築するということになりまして、ここに市道があると庁舎の建設ができないという申し入れがございまして、たのぞ市道百八十八号線を赤く塗ってあるところに移転変更しようというものでございします。

これには道路法の百十条オニ項に「路線を変更する場合に議会の議決を要する」ということになつてゐるので、お願いするわけがございします。

(「異議なく」と呼ぶ有あり)

議長(黒川佐太郎君)

御質疑なしと認めます

よつて本案はこれにて質疑と打ち切り討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか

(異議なしと叫ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

御異議なしと認めますよつて本案は原案通り可決されまうにただいま三沢節議員君ほか七名の議員君より本市議会委員會条例の一部を改正する条例案が提出されまうにおはかりいたしますよつて本案と今日の日程に追加し直ちに議題としたしたいと思いますかこれに御異議ありませんか

(異議なしと叫ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

御異議なしと認めますよつて日程は追加されま

した議案と配付いたしております

(議案配付)

議長(里川佐太郎君)

議案の配付漏れはありませんか。――配付漏れなしと認めます。議案オ八十号と議題といたしまして

(書記朗読)

議案オ八十号 館山市議会委員会条例一部を改正する条例の制定について

三三番(三沢節君)

議案オ八十号 館山市常任委員会条例の改正について八名の推薦者と得まして提案いたしました。オでございまして常任委員会の委員の定数につきましてましては過日協議会におきまして種々検討されたのでございまして、その結果を申し上げます。うかが

委員会の定数と本議案の通り改正いたしたいと思ひますのでよろしくお聞きまゝの御賛成をたまはりたくお願い申しあげます。

（異議なし）と呼ぶ者あり

議長（黒川佐太郎君）

御質疑なしと認めまゝのようて本議案はこれにて質疑と打ち切り、討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

（異議なし）と呼ぶ者あり

議長（黒川佐太郎君）

御異議なしと認めまゝのようて本議案は原案通り可決されました。

ただいま可決されましたに本市議会員条例中各常任委員会の定数改正に基きまゝして各委員

会とも欠員になつたのであります。従ひまして本日
直ちに選任を行ないたいと思ひます。これに御異議
ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)

御異議なしと認めます。よつて本日直ちに選任す
ることに決しました。暫時休憩いたします。

午後三時十五分 休憩

午後三時五十八分 再開

議長(黒川佐太郎君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

これより常任委員会の委員と委員会系別を

四条の規定により選任いたし、ます、局長として報告
いたさせます。

事務局長（高梨清一君）

この席より申し上げます。

総務常任委員会

山本昇さん、保科忠天さん

高橋文治さん、吉田勇治郎さん

鈴木孝さん、松本藤太郎さん

藤田好次さん、山口康さん

経常委員会

三沢節さん、館石伝藏さん

小柴孝さん、鈴木正一郎さん

小沢豊太郎さん、君塚喜三さん

黒川佐太郎さん、志村信作さん

多沢徳順さん

文教民生常任委員会

秋山大三郎さん、安田益男さん

西村直次さん、嶋田繁天、石井正さん

関武夫さん、辻田実さん、田中祿郎さん

山田敬孝さん

建設常任委員会

鈴木平藏さん、女藤亀若吉さん

江田徳太郎さん、望月照正さん

田村源治郎さん、萩生田七郎さん

菊井敏博さん、島野茂樹郎さん

中村有吾さん

以上でございませう。

議長（黒川佐太郎君）

以上より通り各常任委員会の委員に選任いたしま
す。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）

御異議なしと認めますよう決定いたしました。
なおこの際本条例第五条の規定による各委員会
において互選されました委員長及び副委員長を報
告いたします。

総務常任委員会委員長 高橋文治君

同副委員長 保科忠夫君

経済常任委員会委員長 志村信作君

同副委員長 君塚喜三君

文教民生常任委員会委員長 湯田繁君

同副委員長 秋山大三郎君

建設常任委員会委員長 鈴木市藏君

同副委員長 菊井敏博君

おはかりいたします。

本定例会に付議されました議事は以上をもちます。

て議了されまゝに。よつて会議規則オ七条の規定により本日をもつて定例会と閉会いたし。まゝのことにて
御異議ありませんか

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(田川佐太郎君)

御異議なしと認めます。よつてオ二回市議定会
例会は本日をもつて閉会と決しました。

午後四時 二分

閉会

本日、会議に付いた事件

一、議事日程に如えて、

議案第八十一号

市道路線変更について

議案第八十号

館山市議会委員会条例の一部を改正
する条例の制定について

常任委員会委員の選任について

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 楳郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敬博 志村 信作

小沢 惠太郎 関 武夫

西村 真次 藤田 好治

江田 徳太郎 君塚 喜三

中村 省吾 島野 茂樹郎

萩生田 七郎 鈴木 孝

鴻田 繁 山田 教字

鈴木 市蔵 安藤 竜吉

安沢 徳順 三沢 菊

高橋 文治 山本 昇

松本 藤太郎 山口 康

欠席議員

保科 忠大

出席説明者

一 第一日目に同ト

出席事務局取員

一 第二日目に同ト

昭和三十九年六月二十二日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長 黒川 修三

司 署名議員 山内 敬一

同

山内 敬一

食口寸譜令

